

我孫子市消費者の会

お知らせ

2024年7月17日 第50期 No. 3-576

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台3-7-1-201 和田三千代方 TEL 04-7183-1434

<http://www.abikoshi-syohisyanokai.net/wp/>

梅雨に入ったと思ったら猛暑、猛暑と思ったら梅雨。ここ数年はこんな感じが続いています。

皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

「四季」から「五季」に考え方を変えた衣料メーカーが出てきたそうです。

これまでは春夏秋冬を3か月ごとに区切っていました。2024年からは春と秋を1か月ずつ減らして、夏を5か月にし、5月～7月「初夏・盛夏」、8月～9月「猛暑」の2つに分けたそうです。確かに実態に合っているかもしれませんね。

本番の暑さはこれからです。皆様、どうぞ体調に留意され、ご自愛ください。

夏の消費生活展 パネル展示

7月30日(火) 13時半～8月7日(水) 15時
生涯学習センター「アビスタ」ストリート

2023年度に市民プラザで行った消費生活展のパネルだけを通路いっぱいに展示します。

テーマは「持続可能な社会を目指して

～みんなが進めようSDGs～」です。

消費者の会のパネルは“トレーやパック多すぎませんか？”の4枚パネルです。図書館や手賀沼公園に行かれた際はぜひご覧ください。

なお、8月3日(土)は花火大会のため、会場も駐車場も12時で退出となります。



8月の定例会はありません。

9月2日(月) 13:30～

我孫子南近隣センター調理室

平和祈念式典

8月10日(土) 11時 開式

生涯学習センター「アビスタ」ホール

どなたでも参加できます。今年も暑いので室内で実施することになりました。約1時間。

16時から水の館3Fで灯ろう作り、灯ろう流し

・8月8日(木)～22日 折り鶴などの展示

アビスタ ストリート

・5日～7日(中学生の広島派遣事業)消費者の会の見城さんが担当者として広島に付き添います。



PFAS(ピーファス)講演会 9月1日(日)
我孫子南近隣センター ホール(けやきプラザ9F)
講師:植田 武智(たけのり)さん

6月号でお知らせしたPFASの講演会のチラシと一緒に配布します。開始は13:30から。無料。

先着80名。申し込み不要。

上履き持参のご協力をお願いします。

スタッフは12:45にホール前に集合です。

アシナガバチが巣作り!

わが家の生垣にアシナガバチが巣作りをしているのを発見。わあ～大変!ハテ?どうするか?

おわん型の巣の大きさは5cmほど。目の前にある。剪定鋏で切れそう。でも刺されそう。7～8匹はいるよ。

部屋の掃除をしながら戦略を考える～ロングコートを着る。長靴をはく。顔や頭は～山で使用した虫よけネットがあった～。殺虫剤はあったかな?振らないと出ないくらいの量だが仕方がない。

いざ!実行!えっ、あつけないくらいバタバタ落ちた。巣は剪定鋏で枝ごと切ってビニール袋へ。

本日はゴミ収集の日。燃えるゴミに入れて完了。
これでよし！！ ほっ！

あとでアシナガバチについて調べてみた。
自分で処理できるのは低い所にあるもので
5cm以下。高い所や5cm以上なら業者に頼んだ
方が良いとのこと。針には強い毒がある。

駆除に最も安全な時間帯は巣に戻って休んで
いる時で日が沈んで2~3時間の頃だそうです。
風上から斜めに殺虫剤をかけるとよいとのこと。
死んでも毒があるので素手で触らないようにと
書かれてありました。蜂は怖いですね。
こんな話、何かの参考になるでしょうか。(k)

新型コロナ「KP.3」

新型コロナの患者さんがまた増加していると
報道されています。「KP.3」と呼ばれる新変異株
で感染力が強く、主に喉の痛みや発熱の症状があ
るそうです。

厚労省によると7月1日~7日に報告された
1医療機関あたりの感染者数は8.07人。沖縄は
29.29人と全国最多。「KP.3」が感染者の90%
以上を占めているそうです。11派に入ったとも
言われています。

まだまだ、マスク、うがい、手洗いはしっかり
行なっていきましょう。

カヤツリグサ

蚊帳など今は無いでしょうね。カヤツリグサで遊
んだことはありますか？カヤツリグサの茎の断
面は三角です。この茎を両端から裂いていきます
が、裂く向きを90度変えておきます。



カヤツリグサ

片方は△に対して縦に、
反対側は△に対して横
に。双方からゆっくり裂
いていくと・・・
四角形になり、蚊帳の完
成。

◆アイガモ農法の開発者 萬田正治氏(鹿児島)が今回、
農園を閉じて老人ホームへ。その際のメッセージ。

「日本の農業と農村へ送るエール」

太古より、山あり谷ありの日本列島、その間に広が
る小さな村々、そこで暮らす人々、周囲は山に囲まれ、
猫の額のような小さな田んぼや畑が段々に広がってい
る。これをどのように平らにし、規模拡大の農業を推
奨するのか、それを推し進める識者の方々に聞きたい。
多分このような方々には、平坦な平野部の農村しか目
に映らないのかもしれない。日本列島周辺部の数多く
の農村に至っては山あり谷ありで大規模の農業は至難
のこと。故に日本列島の約70%を占める中山間地農
業と農村こそが本当の課題ではないのか。このことに
誰も真正面から触れようとしていない。これでは日本
の農村は衰退の一途をたどるしかないであろう。

世界に目を向けても多くの発展途上国では、山あり
谷ありの地形の中で暮らしている。国連憲章でも「世
界の農家の9割は小農の家族経営であり、世界の食糧
と環境はこれで守られている」として、「家族農業1
0年」を提唱していることを、果たしてどれだけの人々
が知っているのでしょうか。かつてベトナム、タイ、
ミャンマー、カンボジア、インドネシアなど東南アジ
ア諸国を訪ね歩いた私には、国連憲章の提言は胸に強
く深く響いてくる。

かつて学生の頃実習して教わった開拓農家の薬師寺
忠澄先生(元栗野町長)は、「農業は生活である。故
に今の農業政策は間違っている」と口癖のように私に
語っていた。当時の私には何もわからなかったが、今
では痛いほど理解できるようになった。農業を「経営」
という人は山ほどのいるが、農業は「生活」だと語る人
がどれほどのいるのであろうか。農業を生活の視点から
とらえれば、中山間地の家族経営や小農の未来も見え
てくる。自ずから農業もあまり使わず環境にもやさし
い農となる。

無念にも農業と農村から去ることになった私だが、
日本の農業と農村の再生に向けて、あきらめることは
なく、エールを精一杯贈りたい。

—以上—

(前段省略)